広報 安達太良

R4．5．25撮影

【巻頭言】

「ある少年との出合い」

福島県小学校長会安達支会長　安齋　憲治
（二本松市立二本松南小学校）

私が、その少年と出会ったのは、二十七年前の四月でした。私は、教職経験八年目で少なからず教職に自信をもちはじめていた頃です。その少年（五年生）は、眼光鋭く、他の五年生とは明らかに様相が違っていました。早速、その少年について過去の出来事を調べ、元担任の先生から様々な話を聞きました。両親が離婚し、足の不自由なおばさんに養育されていること、友達とのトラブルも日常茶飯事で、要注意人物であること、どんなに叱っても涙一つこぼさないこと等々。

実際に私が担任し、様子を見ていてもその情報が間違いでなかったことにはすぐに気づきました。トラブルを引き起こし、注意しても表情一つ変えることなく、弁解もせず、淡々と教師の話を聞くだけでした。声を荒げて叱責してもその態度が変わることはありません。それまでの私の教職経験では、どう対応していいのか正直わかりませんでした。連絡帳に記しても養育しているおばさんは、何の返答もしてくれませんでした。なんとかしなくてはと思いながら二か月が過ぎていきました。

ある日、その少年が友達の家に遊びに行っておもちゃを壊してしまったという情報が入りました。家庭訪問の時期でもあり、私はその少年の家に出向きました。家は、お世辞にも立派な家とはいえず、平屋でトタン屋根の小さな家でした。家にいたのは、足が悪くて動けないおばさん一人で、そのおばさんとの会話によって、私は自分の力量のなさと、その少年への懺悔の念を痛感させられました。

そのおばさんは、自分の甥っ子を褒めちぎっていました。心優しい甥っ子が、悪さをするはずがないと固く信じていました。私が事実を話すと静かに涙を流しました。話によると少年は、毎日、足の不自由なおばさんのためにご飯を炊き、洗濯をし、掃除をしていたのです。学校のことは、おばさんに心配をかけないようにしようとプリントや連絡帳は見せたことがありませんでした。その事実を知らされたときに、その少年の過去や境遇を活字や聞いた話で勝手に決めつけ、その子の人間性まで疑っていた自分がとても情けなく感じました。少年と向き合うことなく、表面的な行為ばかりに気をとられ、指導していた自分がとても恥ずかしく思いました。

少年は４年生まで、周りの大人からかわいそうだという理由で腫れ物に触れるような扱いを受けていましたが、その日を境に私は、その少年と真摯に向かい合うことにしました。小さな問題であっても、放課後その少年ととことん話し合いをする時間をもちました。そんな生活を一か月続けた頃、私は少年と話しているうちに気持ちが高ぶって、少年への思いを感情の赴くままにぶつけました。話が終わったあと、その少年の何かがはじけたのか、目から大粒の涙がこぼれていました。

その日以来、少年は、周りの友達が驚くような変化を見せました。宿題は卒業まで忘れたことはなく、友達とのトラブルも一切なくなりました。卒業式に見せた少年の笑顔は、友達との深い絆を物語っていました。

私がこの少年と出会うことなく教職人生を送っていたら、一人一人の子どもたちとどれだけ真剣に向き合うことができたでしょうか。それを考えるとこの少年との出会いに本当に感謝するばかりです。

今も、人に迷惑をかけたり、自暴自棄になったりしている子どもたちも少なくはないはずです。そうした安達地区で学ぶ子どもたち一人一人に話し相手になってもらえる人が存在することを願ってやみません。

【総務部活動計画】

「安達は一つ」を実効あるものに

総務部長　佐久間　仁
（本宮市立本宮小学校）

１　活動方針・活動内容

(1)　全国・東北・県小学校長会との緊密な連携と調整のもと、協議、研修等の充実を図る。

○　第７５回全国連合小学校長会研究協議会東京大会（１０月１９日～２０日　東京都）

○　第６３回東北連合小学校長会研究協議会山形大会（７月６日～７日　山形市）

○　第５２回福島県小学校長会研究協議会会津大会（８月１日～２日　会津若松市）

(2)　支会・各専門部の組織を十分に機能させ、計画的かつ継続的な活動を展開し、特色ある学校経営の創造に資する。

○　年間計画に基づく研修や情報交換

・全体研修会、方部別研修会

・各専門部（研究部、行財政部、広報部、生徒指導部、経理部）の活動と情報交換

○　創意工夫を凝らした運営

・活動内容・方法等の工夫

(3)　各種教育団体との連携を密にし、安達地区内の教育課題の解決と教職員の資質・能力の向上に資する。

○　県小教研研究協議会の開催

・社会科部会への協力（１０月４日　五百川小）

○　地区小中学校長協議会との連携活動

・総会　（４月７日）

・安達地区教育長との懇談　（８月２５日）

・退職校長会との懇談会　（１２月８日）

・退職校長感謝会　（３月１９日）

・中堅教員等実務研修会　（５月～７月）

○　小中学校音楽祭、理科作品展、特別支援学級小中交流会・児童作品展、書写実技研修会

２　「安達は一つ」を実効あるものに

学校経営上の課題解決に向け、２５名の会員が本音で語り合い、情報を共有するとともに、校長としての在り方について研修を深め「安達は一つ」を実効あるものにしたい。

【経理部活動計画】

適正・円滑な経理を期して

経理部長　佐藤　睦弘
（二本松市立原瀬小学校）

１　活動の基本

全国・東北・県小学校長会の動向を踏まえ、本会の目的に沿った質の高い活動が展開できるよう、適正な予算編成や円滑な執行にあたる。

２　会費の執行状況

(1) 今年度会費（一人あたり）７０、０００円

(2) 今年度の各負担金（一人あたり）

○ 県小学校長会費　３０，０００円

○ 研究大会基金　１，０００円

○ 東北連小会費　２，０００円

○ 東北連小準備金　３００円

○ 全連小会費　８，０００円

○ 日本教育会費　３，１００円

○ 小中連協会費　１１，０００円

○ 大会参加旅費積立金　１，０００円

(3) 賛助会費（一人あたり）

○ 退職校長会賛助会費　５００円

(4) 残りの会費

・事業費や運営費等に計画的に充てる。

(5) 旅費について

・校長会研修会は、全て県費旅費となる。

３ 経理部組織

二本松方部　佐藤　睦弘（原瀬小）

東達方部　肥沼　志帆（東和小）

南達方部　佐久間　仁（本宮小）

【行財政部活動計画】

教育行政上の課題解決に向けて

行財政部長　車田　敦子
（二本松市立岳下小学校）

１　活動方針

(1)　教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進する。

(2)　当面する課題や新たな視点から調査研究活動を行う。また、特別調査として今年度も大震災・原発災害や感染症の影響に係る調査を継続して行うものとする。

(3)　関係機関との連携を保ち、教育行政上の諸問題について情報を収集するとともに、広報部と連携を図り適時・適切な対応に努める。

(4)　組織をあげて地域課題を解決するための活動を推進する。

２　活動内容

(1)　多様な教育活動に対応するための教育条件の整備充実。

(2)　教職員の待遇改善と福利厚生の向上。

(3)　当面する重要課題の調査研究とその課題解決。

３　活動計画

(1)　行財政部会

○ 組織・活動計画作成　（４月）
○ 調査Ⅰ・Ⅱ及び特別調査の実施　（５月）
○ 行財政上の課題把握　（６・７月）
○ 要望活動の推進　（８月～）
○ 活動の反省　（１月）
○ 人事の反省　（３月）

(2)　各種県行財政部会等への出席

○ 県行財政部合同部長会・代表部長会
○ 県行財政部幹事会・合同幹事会

４　行財政部組織

二本松方部　車田　敦子（岳下小）
東達方部　石川　勝佳（小浜小）
南達方部　渡辺　博明（岩根小）

【研究部活動計画】

第Ⅱ期研究推進

「ふるさとを愛し　ともに未来を切り拓く　たくましい子どもを育てる学校経営と校長の在り方」（令和５年度会津大会で発表）

研究部長　児山　秀典
（二本松市立油井小学校）

１　活動方針

(1)「研究の手引き～校長の在り方（役割と指導性）～」をふまえ「ふるさとを愛しともに未来を切り拓くたくましい子ども」の育成に向けた校長としての取組が明らかになるように進める。

(2)　研究を校長自身の研鑽の場ととらえ、校長としての考え方や取組が明示されるよう研究を進める。校長会の組織的な研究として質の高い実践研究を進めていく。

(3)　県小学校長会研究大会会津大会で、第Ⅱ期支会研究の成果を発表し、県内小学校長の職能向上をに寄与する。

(4)　令和６年度東北連小青森大会発表に向けた準備を計画的に行う。

２　活動内容

(1)　各方部による実践
(2)　東北連小山形大会発表と 12 名の参加
(3)　R6 東北連小青森大会発表に向けた準備
(4)　全連小研究協議会東京大会への参加
(5)　研究集録原稿の作成（二本松）
(6)　第Ⅲ期研究の準備開始

３　研究組織と令和５年度研究の視点

二本松	方部主任 松浦　秀行 （石井小） ［発表支会］	Ⅱ　教育課程 ４豊かな人間性【視点１】 「豊かな心を育む道徳教育の推進」
東達	方部主任 三坂　克典 （川崎小） ［希望支会］	Ⅴ　教育課題 ９　自立と社会性【視点２】 「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」
南達	方部主任 齋藤　和久 （大山小） ［希望支会］	Ⅱ　教育課程 ３　知性・創造性【視点1】 「深い学びを実現するための授業改善の推進」

【生徒指導部活動計画】

生徒指導上の課題解決に向けて

生徒指導部長　伊藤比呂美
（本宮市立五百川小学校）

１　活動目標と方針

(1)　県小学校長会生徒指導部活動方針・重点を踏まえ、本支会における生徒指導上の諸問題及び対応について情報交換を行い、学校経営に役立てる。

(2)　生徒指導上の共通課題等について解決策を探る。

(3)　幼稚園・子ども園・保育所や中学校及び関係機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

２　活動内容

(1)　生徒指導上の当面する課題についての情報収集と提供を行う。

①「心のケア」を必要とする児童の実態調査

②「いじめ・不登校・虐待・暴力行為」に関する調査

③「ネット・ＳＮＳ利用の実態」ルールに関する調査

(2)　共通課題解決に向けての実践状況の情報交換、検討協議をする。

(3)　各中学校区ごとに関係機関との連携を図り幼・小・中の一貫した生徒指導を行う。

３　活動計画

(1)　生徒指導部会

○ 組織・活動計画作成　（４月）

○ 調査の実施　（５～７月）

○ 調査報告書の提供・情報交換　（８月）

○ 今年度の反省と次年度の取組　（２月）

(2)　各種県生徒指導部会への出席

４　生徒指導部組織

二本松方部	相沢　周（大平小）
東達方部	堀江　茂樹（旭　小）
南達方部	伊藤比呂美（五百川小）

【広報部活動計画】

学校づくりを支える広報活動

広報部長　三坂　克典
（二本松市立川崎小学校）

１　活動目標

(1)　会員の研鑽と交流、学校経営に寄与する広報活動を推進する。

(2)　関係機関との連携を図り、情報交換や資料提供のための広報活動を推進する。

２　活動内容

(1)　広報「安達太良」の発行（年３回）

(2)　地区広報部会の開催と連携

(3)　県広報部幹事会との連携

(4)　県会報等への寄稿

３　活動方針

(1)　広報「安達太良」の発行に重点を置き、全会員１回を原則として寄稿を依頼する。

(2)　校長会組織や担当する領域・分野を生かして寄稿を依頼する。

(3)　広報の発行は年３回とし、支会の特色を生かし親しみのもてる編集に心がける。

(4)　県会報等の寄稿については、支会長より依頼する。

(5)　会員への会報はメールで届ける。

４　活動日程

(1)　広報部の活動計画（第１回研修会にて承認

(2)　広報部会　　（必要に応じてメール等で

(3)　広報の発行予定　　１９７号　　７月１日
　　１９８号　１２月１日
　　１９９号　　３月１日

(4)　県会報への寄稿

・今年度は、２５７号県会報「【支会だより】今年度の活動に向けて」原稿依頼

５　広報部組織

部　長	三坂　克典（川崎小）
二本松方部	及川　博睦（杉田小）
東達方部	高松　宏光（新殿小）
南達方部	相樂　秀幸（白岩小）

【新任校長として】

りんどうの花のように

二本松市立安達太良小学校　齋藤みちる

引継ぎの日、安達太良小の校舎はとても大きく輝いて見えた。この学校の校長になるという胸の高まりとともに大きな不安で、何となく地に足が着いていない感じがした。

本校の教育計画の１ページ目に「校章『りんどう』に寄せる」とある。何度も読み返し、りんどうについて調べた。色、花言葉、「りんどう」という歌も見つけ、何度も繰り返し聴いた。力強い歌詞は私の背中を押してくれた。しかも、本校の縦割り班の名称は「りんどう班」。りんどうが咲く素晴らしい自然に囲まれ、これ以上ないほど充実した校舎。県内有数の温泉地という立地。４３名の純粋で素直な子どもたち。ふるさと学習、安達太良山登山、スキー教室・・・子どもたちのために､そして教職員のために何ができるか考えた。

スローガンは「Well-being あだたら」～子どもも教職員も保護者も地域もみんな幸せな学校～。幸せになるために大切なことは「笑顔」でいること。子どもたちにも教職員にも保護者にも伝えた。そして、私自身がいつでも「笑顔」でいること。古き良き伝統は守りつつ、今できる、今求められている教育のあり方をイメージしつつ、新しいことに挑戦していきたい。子どもたちのために。けれども私一人の力だけでは実現出来ない。「チームあだたら」の力が必要だ。子どもたちが学ぶ姿を見つめながら、教職員のよさを探しながら、地域を歩きながら、辿りついた私の課題は、「校長としてチームの力を高める」こと。

りんどうの花が咲く頃には、りんどうの花のように凛として、しっかりと地に足を着けて歩いていたい。「笑顔」を忘れずに。私らしく。校長会の皆様のお力添えをいただきながら、日々成長していきます。ご指導よろしくお願いいたします。

【新任校長として】

地域のために

二本松市立杉田小学校　及川　博睦

４月下旬、杉田地区の運動会が正式に廃止と決まったことを聞いた時、私はとても驚きました。それは、地域の運動会は地域の元気の源であり、なくなるものではないと勝手に思い込んでいたからかもしれません。しかし、企画する方々にとっては、コロナ禍もあって数年間実施していなかったこともあり、再度実施にするにはとても大きなエネルギーが必要だったことを容易に想像できました。廃止に至るまでの手続きについても全く問題なく進められたようでした。

この地区運動会の廃止の情報が私の耳に入る前に、本校の運動会の実施方案は話し合われました。つまり、地区運動会の廃止の件は一切考慮することなく、本校の運動会の準備は進められ当日も実施されたわけです。コロナ禍明けの開催で、来校者数の制限もなしにし、来賓の方々にも大勢来ていただきました。種目数も昨年度より増やしました。

しかし、地区運動会が担っていた役割を学校が少しでも引き受け、それを何らかの形にするべきではなかったかと、今、感じています。それは、種目なのか心遣いなのか企画なのか、未だはっきりしていませんが、もやもやしたものが私の心の中にあります。

本校は、杉田川が目の前を流れ、桜並木が美しく、休日に家族連れが校庭に遊びに来るぐらい素敵な環境にある学校です。新任校長として、運動会然り、地域のために何ができるのか、あらゆる物事について考える日々が続きます。安達支会の皆様からご指導とご助言をいただきながら進んで行きたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【新任校長として】

「感謝する・感謝される」学校に

二本松市立新殿小学校　高松　宏光

教頭時代、研修会の中で「校長として、どんな学校にしたいですか？」「ビジョンは明確ですか？」と問われたことがありました。日々の校務処理に追われる傍らで、県の施策や法規の学習にばかり気をとられ、最も大切なビジョンが不明瞭であることに気づかされた瞬間でした。校長として学校経営・運営に尽力したいという漠然とした考えだけで、最も大切な「柱」が欠けていたのです。

研修が終わった後、改めてその問いについて考えてみました。尊敬する校長先生方の姿、切磋琢磨してきた同僚との日々、子どもたちとの失敗や喜び、保護者の皆様や地域の方々とのつながり･･･。様々考えた末、自分がたどり着いた言葉は【感謝】でした。【感謝】を「柱」に据えた学校づくりをしていこうと考えました。

学校を中心に、回りの人・物・事に「感謝する、感謝される子ども」の育成、同様に「感謝する、感謝される教職員」、「感謝する、感謝される保護者」「感謝する、感謝される地域」を築いていくことが私の目指す所です。恵まれたことに、私の赴任した新殿小学校には、その素地が十分育まれていました。私自身が、「子ども」「教職員」「保護者」「地域」をつなぐ橋渡し役となり、しっかり四者を結びつけていきたいと考えています。

目標の実現に迫れるよう、今後とも校長会の皆様のご指導・ご助言、お力添えを頂ければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

【新会員として】

「おおらかに」

二本松市立大平小学校　相沢　周

本校の校庭南側にある国旗掲揚塔の台座石碑に、「おおらかに」という言葉が刻まれています。これは、昭和４８年に行われた本校の校舎改築を機に、地域の方々が寄付を募って台座を建立した際に刻まれたものであることが、先日読んだ当時の資料から分かりました。そしてそこには、「大平の子どもたちにおおらかに育ってほしい」という当時の地域の方々の強い願いが込められているということも書かれていました。

本校の教育目標にこの言葉が入れられたのは昭和５２年。「おおらかでたくましい子ども」、とされた教育目標は、それから一度も変わっていません。歴代の校長先生をはじめとする多くの先輩の先生方が、地域の方々の心に寄り添い、その願いを教育目標に掲げることで共有し、大平の子どもたちのためにと実践を重ねてこられた本校教育への熱い思いを感じると同時に、それを無にすることなく、さらに充実・発展させていかなければならないという大変重い責任もまた、日々感じております。

今も変わらず強い願いをもち本校教育に協力的な地域や保護者の方々、そして熱心な先生方、素晴らしい自然。これら大変恵まれた環境の中、素直で何事にも精一杯取り組む子どもたちを目の前に、教育目標の具現化を目指し、先人の積み上げてきた伝統を継承し発展させていくことができるよう、確かな実践を重ねてまいりたいと思います。